

おんせん県いいサウナ研究所

～令和5年10月20日(金)訪問～ 【豊後大野市】



豊後大野市は、公式に「サウナのまち」を宣言するなど、地域全体でサウナによるまちおこしに取り組まれています。

おんせん県いいサウナ研究所は、観光客の誘致促進と地域振興を図るため、河川や鍾乳洞など地域の特性を活かした独自のサウナを考案し、令和2年に設立されました。

おんせん県いいサウナ研究所には、宿泊施設やカフェの経営者、鍾乳洞の支配人など様々な方が参加されており、県外からも多くの参加者が集まる「サウナ万博」というイベントを実施したり、豊後大野市内の飲食店と協力して「サウナ飯」を企画するなどの活動をされています。この取組はマスコミにも広く取り上げられて大きな広がりを見せており、今では、日本国内のみならずアジアや欧米豪など世界各国から観光客が訪れているとのことでした。

また、バス等の交通アクセスにかかる課題や中九州横断道路の完成への期待などのご意見、ご要望もお聞きすることができました。

若い力で地域活性化を進める皆さんに感謝申し上げるとともに、今後も継続して取組を続けていただきたいとお伝えしました。



豊後大野市の石風呂と「サ飯」

豊かな自然と恵まれた大地、文化継承などが高く評価され、九州で唯一「日本ジオパーク」と「ユネスコエコパーク」の両方に認定されている豊後大野市ですが、「おんせん県おいた」において温泉がないという数少ない市町村です。しかし、この地には古くから石風呂の文化があり、先人たちは溶結凝灰岩の岩壁に穴を掘り、セキショウなどの薬草を炊き上げ、蒸し風呂を楽しんでいました。

「おんせん県いいサウナ研究所」では、市内の7施設が、地域の特性を活かした「鍾乳洞×サウナ」、「清流×サウナ」など、独自のサウナを導入して活動しています。また、サウナの後に食べる食事「サウナ飯（通称「サ飯」）」は、現在、市内の40以上の飲食店が、それぞれ自慢のメニューを提供して協力しています。

あえてサウナ。

